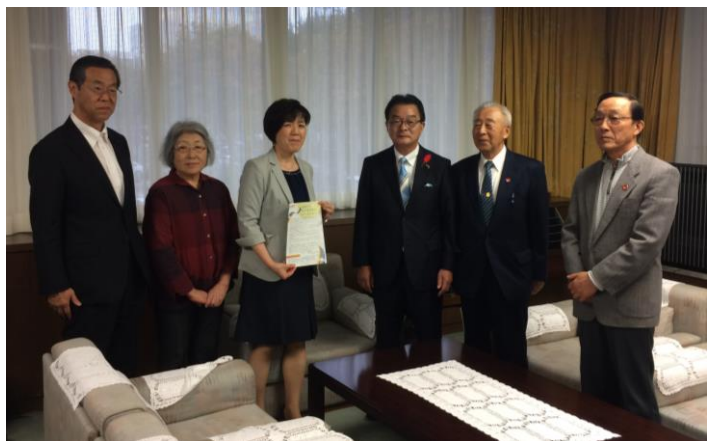


「ヒバクシャ国際署名」をすすめる岩手の会ニュース

全国に先駆け 10月10日、県議会で請願採択



懇談では、ノーベル平和賞を受賞したICANなども話題になり、日本政府の署名、批准実現を確認しました。

四党派と無所属議員二人が紹介議員となった「日本政府が速やかに核兵器禁止条約に署名し、国会が批准することを求める請願」は、十月十日の県議会本会議で賛成多数で採択されました。

県議会での採択は全国に先駆けた快挙です。今年に入ってから、知事や議長、県議員、県内首長をはじめ十三万筆の署名と、盛岡市など十四市町村での意見書採択が力となりました。

本会議終了後、被団協の伊藤会長、岩手の会幹事団体の県生協連吉田専務理事、県原水協の小笠原事務局長、下村被団協事務局長が佐々木順一議長を訪問し、請願・意見書の採択に感謝を述べ、この間の署名の取り組みなどを紹介。伊藤会長は自らの被爆体験を語りました。

「日本政府が速やかに核兵器禁止条約に署名し、国会が批准することを求める意見書」 14市町村議会が提出！

盛岡市、花巻市、一関市、久慈市、奥州市、二戸市、滝沢市
金ヶ崎町、軽米町、洋野町、山田町、住田町、野田村、九戸村

—2020(平成32)年4月まで—
県民過半数に近い50万筆の目標に対し **13万筆** (目標の26%) **突破!**



盛岡第一高校、第三高校
生徒下校時に署名訴える

22人の参加で 署名101筆

核兵器禁止条約の署名が開始される9月20日から26日までの「平和の波」(ピースウエーブ)に呼応して、岩手の会は21日、盛岡市内の高校二校で下校時の生徒に署名を呼びかけました。一高、三高とも午後4時から1時間で署名が合計101筆寄せられ、三高前のシールアンケートで、「核兵器をなくしたいか」の設問では、対話した18人全員が「はい」にシールを貼り、「禁止条約に日本が反対しているのをどう思うか」には、15人全員が「良くないこと」と、回答しました。

県内での「ヒバクシャ国際署名」は、9月末時点で124,854筆に到達し、10月に入って13万筆を突破しました。

いわて生協が10万筆を独自目標として掲げ、県内の店舗や組合員の奮闘で8万筆を集めるなど全体を牽引し、原水協が2万筆、平和環境センターも1万筆を超え大きく前進しています。

被団協の伊藤会長は、遠野市役所全職員と地元の行政区全戸から署名を集めるなど大奮闘。

さらに県内高校生への署名も大船渡地域、盛岡市内の高校にも働きかけ、先生方の協力もいただき大きく広がっています。

地域での取り組みも広がろうとしています。

—10月22日投票の総選挙、「核兵器禁止条約」に署名する政府をつくらう—